

令和5年度 子ども樹木博士実施報告書

～今日から君も樹木博士 子ども樹木博士に挑戦～

1. 実施日時 令和5年8月11日(金) 9:30 ~ 12:15
2. 実施場所 静岡県立美術館周辺の森・静岡県立中央図書館
3. 参加インストラクター会員

担当: 大石・杉山
アシスト会員: 青野、矢下、中川、越智、佐野、小長井 合計8人

4. 参加者内訳 受験者(子ども)18人

種別	幼稚園児以下	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
人数	4	6	4	2	2	0	0	18

保護者 17人

5. 募集方法 静岡市広報、地元自治会とボーイスカウトへチラシ配布、森林インストラクターのロコミ

6. 実施状況

出題数は昨年同様、15種に留めた。本来の目的である「樹木に親しむきっかけを作り、楽しく学んでもらおう」ということで、覚えやすく馴染みのある15種を試験問題とした。ただし、幼稚園児は6種とした。事前観察での解説は試験の対象である15種を中心に行い、更にインストラクターが特に伝えたい樹木数種類の解説も行った。

試験問題では枝葉の実物を提示する以外に、木の実や樹皮の写真なども参考に添えた。解答用紙はチェックシート形式にして、そこに葉のイラストやヒントを記載した。実物と比較して確認が出来たらチェックを入れ、それを再度頭にインプットしてから回答するという方式で行った。

また、採点の時間を利用して、木のペンダント作りや、ドングリ工作を行って、参加者に楽しんでもらった。

【樹木の解説】

(試験問題の15種)

樹種	ヒイラギ	イチヨウ	カツラ	イロハモミジ	サクラ	クスノキ	ヒノキ
	カシワ	トチノキ	トベラ	ヤツデ	アオギリ	カキ	コナラ
	ユリノキ						

ワークシートに掲載してある15種を中心に葉や樹皮、果実などの形態的特徴、香りや硬さ、何に利用されているか、名前の由来などを分かり易く説明した。ヒイラギの葉の鋭い刺や、クスノキの香り、トチノキの冬芽のべとべとなどを体験、確認してもらった。サクラの葉の蜜腺の説明ではアリとサクラの関係に触れたり、またイチヨウではその薬効を説明したり果実の銀杏を拾って見せたりした。そんな中で、子ども達はまだ青い柿の実を棒でたたいて「まだ固い？」と熟れ具合を確認したり、ミズキの果実や果柄を拾いあげ「これは何？」と質問したり、なかなか子ども樹木博士の片鱗がちらついていた。他方では、セミの抜け殻を集めて楽しむ子供もいた。樹木を観察している時には、その木に対する理解を深めてもらえるよう、子供だけでなく親たちにも質問しながら皆さんにしっかり勉強していただいた。

植物の解説中に心温まる光景が見られたので、それを一つ紹介しておきたい。

〈移動の途中、ご両親に甘えていた男の子が、近くの桜の幹にいた太り気味の雄アブラゼミを見つけてきた。しかし背中にはセミヤドリガの幼虫が、一部にはボーベリア菌感染と思われる白い綿状のものも見える。既に鳴く元気もないセミだったが、「可哀想」とその子は自分の手でそれらを払い落としてセミを元の木に戻してあげた。〉 何と心優しい少年なんだろう。樹木観察の途中でも自然全体を感じる子供の感性に感心した次第。こんな子供たちが増えてくれることを願うばかりだ。

【工作】

試験問題の回答を終わった子供達には、順次別室に移動して木のペンダント作りとドングリ工作をやってもらった。輪切りにした小枝の円板に、カラーマジックで皆さんの好みの絵とか模様を描いてもらった。また小枝の円板を土台にして、その上に顔を描いたドングリをいくつも張り付けると、可愛い置物ができた。中には寝ているドングリもあって、子どもの発想は面白い。短い時間ではあったけれど、「夏休みの楽しい思い出作りになりました。」との声も聞かれた。今回も工作の時間を設けたが、保護者にも子供にも楽しんでもらえてよかったと思う。

【試験結果】

段・級	初段	5級	6級	7級	合計
人数	14	4	0	0	18

【写真】



朝の受付時、チェックシートを配布して説明



樹木サンプルを見て、解答番号を記入



ドングリと円板に絵を書いたの置物作り



皆さん認定証をもらって大喜び